

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院 情報システム学研究科 博士前期課程 情報システム運用学専攻		
氏 名	小田 欣治	学籍番号 0552007
論 文 題 目	医療現場での作業中断による ヒューマンエラー防止に関する研究	
<p>要 旨</p> <p>近年、多くの医療事故が報告されている。これに対し、厚生労働省は2001年4月より医政局総務課に医療安全推進室を設置し、各病院からインシデントを収集している。そして、それらに含まれる問題点を明らかにして安全対策をとることを推進している。しかし、財団法人日本医療機能評価機構に寄せられる事故報告数は、参加施設の増加と共に年々増加しており、医療事故に対する社会的関心も高まっている。</p> <p>医療現場で発生するヒューマンエラーは、エラーを引き起こしやすいハードウェア、ソフトウェア、環境が、人間の本来持っている特性と作用し合うことで引き起こされている。その中でも医療現場は、作業中断が日常的に発生する特殊な現場であることを考慮しなくてはならない。</p> <p>本研究では作業中断のメカニズムに着目し、体系的に分析することを目的とする。そして得られた情報から、中断によって発生するヒューマンエラーについて対策を選定できる補助表を作成し、実際に使用して検討する。</p> <p>第1章では本研究の背景を示し、第2章では、独立行政法人福祉医療機構が発表している医療事故のデータを用いて、中断に関する事例の抽出を行った。そして抽出した事例を、中断の喚起、エラーの発生時期、エラーの種類（エラーパターン）の3つの視点から分類を行った。さらに、中断の喚起を自発的な中断・強制的な中断の2つに分類、エラーの発生時期を、中断前・中断先・中断後の3つに分類、エラーパターンを、行えない・忘れる・間違える・遅れる、の4つに分類した。</p> <p>第3章では、2章で行った分類を基に、抽出した事例と病院Aのインシデントレポートを用いて分析を行い、それらを比較した。その結果、中断の喚起である中断要因とエラーパターンについては、医療現場によって傾向が異なっていた。一方、エラーの発生時期はどちらも中断先が少なく、中断前と中断後に集中していた。次に各エラーパターンに対して原因の抽出を行い、それらの原因に対して提案された対策案をまとめた。そして、エラー原因、エラー発生時期、対策案を一覧にした対策立案補助表を作成し、補助表を用いた対策案選定手法を提案した。</p> <p>第4章では、実際の現状を把握するために病院Aにおいて中断に関するアンケートを実施し、エラーの経験について答えてもらった。その結果、1日に複数回中断を経験する、配属年数が1年未満の医療従事者がエラーを発生しやすいなどの傾向が得られた。エラーの経験については、3章で提案した対策案選定手法を用いて分析を行い、病院Aの中断によるヒューマンエラーの現状について考察した。そして、分析を行った際に挙げられた課題を検討し、第5章でまとめた。</p>		